

土着天敵のニホンアブラバチを利用するワタアブラムシ対策

農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

2002年の農薬取締法の改正により特定防除資材（特定農薬）として「使用する場所と同一の都道府県で採取された天敵」が指定された。

ワタアブラムシやモモアカアブラムシなどの天敵であるニホンアブラバチ (*Lysiphlebus japonicus*) は、宮城県でもよく見かけるセイヨウキヅタ（通称アイビー）に寄生しているキヅタクロアブラムシにも高率に寄生していることが明らかになった。

そこで、ニホンアブラバチを特定防除資材として、さらに工夫次第では、アイビーをコンパニオンプラントやバンカープラントとしても利用できるのを普及情報とした。

2 普及情報

- 1) ニホンアブラバチのマミー（寄生蜂の幼虫が蛹になるために、アブラムシの外皮が硬化し丸くなったもの）は、キヅタクロアブラムシが増加した後約2週間目に目立ち始めるので、マミー採集の目安にする（図1）。
- 2) マミーは、アイビーの新梢先端付近に付着しているので、二次寄生蜂（アブラバチに寄生する蜂）の寄生が少ない時期に（図1）、アイビーの鉢植えをそのまま、あるいは新梢を切り取り、ワタアブラムシの寄生株付近に放置する。
- 3) ニホンアブラバチは、野菜、花き類ではメロン、ナス、イチゴ、キクの植物体上での寄生活動が確認された（表1）。
- 4) キヅタクロアブラムシは、身近な植物ではアイビー以外での寄生は確認されておらず、農作物に被害を及ぼす恐れは少ない。
- 5) ニホンアブラバチはすべての個体群が休眠越冬すると言われているが（図1）、暖房下の室内では容易に増殖を繰り返すので、加温施設では冬期間でも活動するものと推察される（図2）。
- 6) アイビーの鉢植えをアブラムシ対策のコンパニオンプラントとして利用すれば、ニホンアブラバチによる寄生のほかに、ヒラタアブ類幼虫、テントウムシ類、クモ類による捕食も期待できる。

3 利活用の留意点

- 1) 特定防除資材を人為的に増殖することは、農薬取締法上認められていない。
- 2) 二次寄生蜂の年次間差や地域差等は不明であり、それぞれの状況に応じて経験を積みながら利用方法を工夫する。
- 3) ニホンアブラバチは、モモアカアブラムシ以外のヒゲナガアブラムシ類での寄生は未確認である。また、アブラナ科植物を忌避するといわれている。
- 4) アイビーの栽培方法や仕立て方は、利用状況により工夫するが、キヅタクロアブラムシは新梢の先端に寄生するので、先刈りは出来るだけ行わない。
- 5) アイビーとキヅタクロアブラムシの組み合わせは、アブラムシ類防除の天敵製剤を利用する際のバンカープラントとしても利用できる。

（問い合わせ先：農業・園芸総合研究所園芸環境部 電話022-383-8123）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間 園芸作物害虫防除における有用天敵類の検索と活用技術の開発
2004～2006年度

2) 参考データ

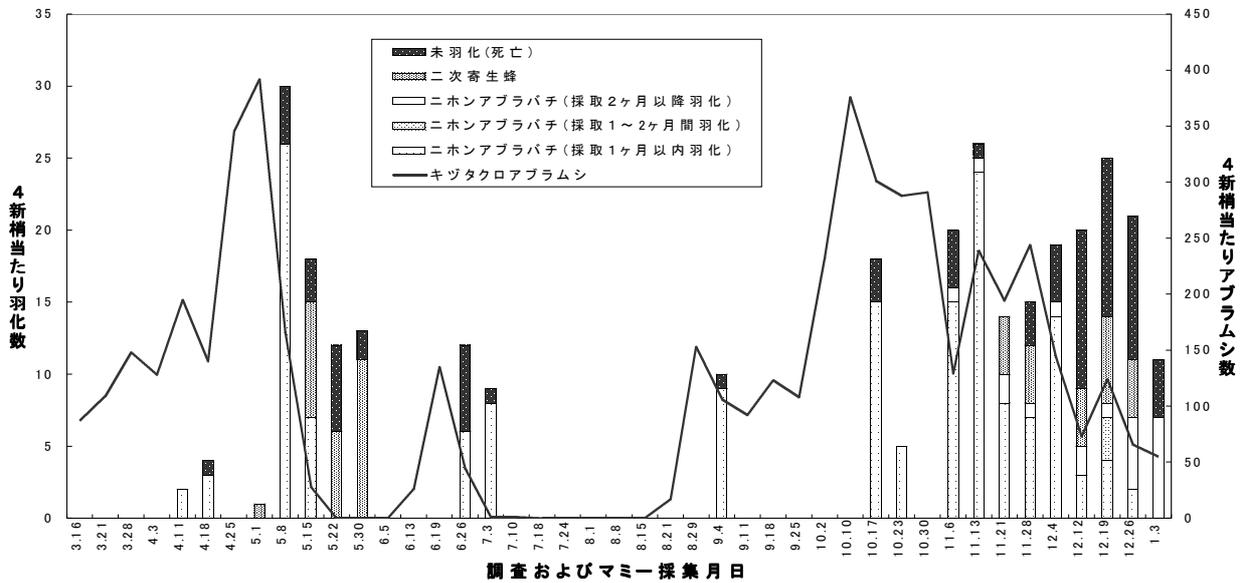


図1 アイビー上でのキヅタクロアブラムシの発生消長と採集したニホンアブラバチマミーの羽化状況(2004～2005年)

表1 寄主作物およびアブラムシ別ニホンアブラバチの寄生数(2004～2006年)

寄主作物	アブラムシ名	ニホンアブラバチ個体数	採集地	圃場
メロン	ワタアブラムシ	5	仙台市	露地
ナス	ワタアブラムシ	1	名取市	ハウス
〃	ワタアブラムシ	7	仙台市	露地
キク	ワタアブラムシ	24	仙台市	露地
〃	モモアカアブラムシ	1	仙台市	露地
イチゴ	ワタアブラムシ	14	名取市	室内飼育

注1 室内飼育は、ワタアブラムシが寄生したポット植えのイチゴを、室内の網で被覆したニホンアブラバチ飼育中のプランター内に設置。

注2 採集マミーから、二次寄生蜂と未羽化分は削除した。

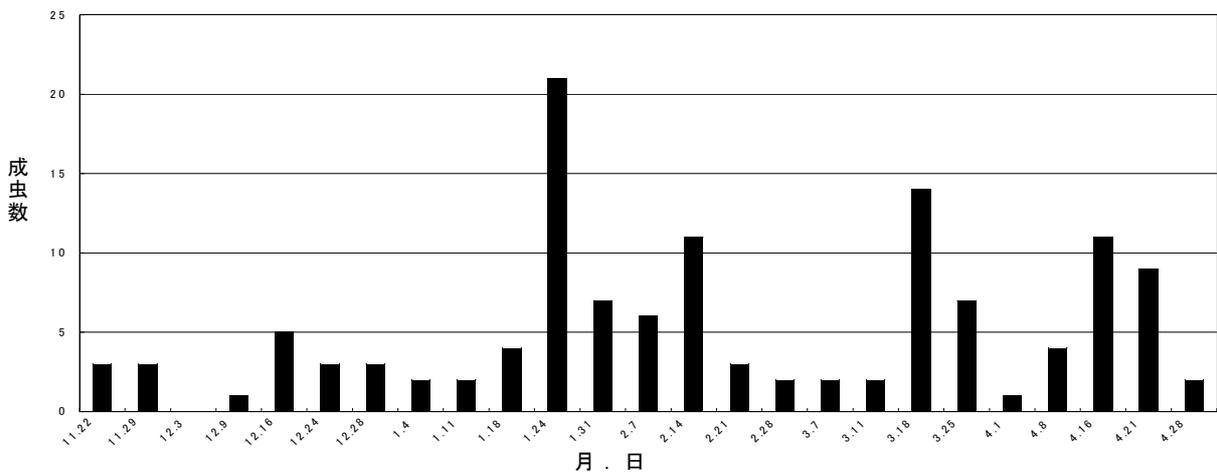


図2 室内暖房下でのアイビー栽培プランター内のニホンアブラバチ成虫の確認数(2004～2005年)

3) 発表論文等

平成17年度北日本病害虫研究会報 第56号